小学校統廃合に関する意識調査の集約

資料 1

実施期間：平成 29 年 2 月 27 日（月）から平成 29 年 3 月 3 日（金）
配付数　：家庭数
回収数　：96 名

問 2.　統合についてどう思いますか？

1	反対	59（61.5%）
2	どちらかというと反対	24（25.0%）
3	どちらかというと賛成	7（ 7.3%）
4	賛成	2（ 2.0%）
5	どちらともいえない、わからない	4（ 4.2%）

問 3.　反対、どちらかというと反対を選んだ理由（複数回答）

1	現在の唐竹小では、小規模校としてのメリットを生かした学校生活を送れている。	74（89.2%）
2	豊明市は保護者との話し合いを一方的に進めており、説明にも納得がいかない。	39（47.0%）
3	間米地区で宅地開発の計画があり、児童数が増える可能性があるため。	49（59.0%）
4	数年前に統合しないとの結論が出されたのに、再度検討をすることに納得がいかない	25（30.1%）
5	2 校の統廃合ではなく、豊明市全体で学区の再編等の整備をするべきだ。	33（40.0%）

6　その他
- 通学路での車の事故など安全面、安全性が心配、小学校が遠い場所には人が住まない。
- 人口増の市長の考えに反している。
- 家を購入の時に学校が近いところを選んだから。
- 児童の意見を尊重して。母校が無くなるのが嫌だから。
- 現在の生活に子ども自身も満足で、少人数のデメリットを感じていない。
- 校舎の建て替え時期に検討すべき。
- 学校が無くなるのがさみしい。
- 通学路が長くなり、心配なため。
- 経費削減としか思えない。
- 校舎の改修が必要となる約 20 年後なら反対等も少なく、皆が納得して統合できると思う。

問 4.　賛成、どちらかというと賛成を選んだ理由（複数回答）

1	クラス替えが可能となり、豊かな人間関係の形成・コミュニケーション能力が高まると思う。	8（88.9%）
2	児童数が増えることにより、運動会や学習発表会等の活動が充実すると思う。	4（44.4%）
3	小学校時代から大きい集団にいることで、中一ギャップの緩和を図ることができると思う。	3（33.3%）
4	児童数が増えることにより、多種多様なクラブ活動、部活動ができると思う。	7（77.8%）
5	現在の唐竹小が小規模校であることに不満があり、適正規模校にしてほしいから。	3（33.3%）

6　その他
- 多様な価値観を充実してほしいから。
- 保育園でできた友達がほぼ双峰小だったので。

問 5.　豊明市の統廃合の検討の進め方をどのように思うか。

1	全く納得できない。保護者との溝は深まっていると思う。	47（51.1%）
2	あまり納得できるものではない。もう少し誠意のある態度を見せてほしい。	28（30.4%）
3	ある程度納得できる。しかし、もう少し改善の余地はあると思う。	10（10.9%）
4	納得できる。このまま進めていただきたい。	0（0.0%）
5	どちらともいえない、わからない。	7（7.6%）

資料２

（案）

平成２９年　月　日

豊明市長　小浮正典 様

豊明市立双峰小学校及び唐竹小学校統合検討委員会
委員長　　小　川　雄　二

豊明市立双峰小学校及び唐竹小学校の統合について（答申）

平成２８年５月２５日付け豊創第５号にて諮問のありました豊明市立双峰小学校及び唐竹小学校の統合について検討した結果、次のとおり答申します。

記

１ 両校の現状分析

本検討委員会では、○回にわたり豊明市立双峰小学校及び唐竹小学校のよりよい教育環境について検討を行ってきました。その中で、教員ヒアリングの結果などから、双峰小学校及び唐竹小学校の教育環境においては次のようなよい点と課題があることが分かりました。

（１）学習面

ア よい点

・児童一人一人を大切にした個に応じた指導が行われている
・特別活動や学校行事などで児童が活躍できる機会が多い
・学校施設を有効に使用することができる

イ 課題

・外国籍の児童の割合が他校に比べて多く、日本語の習得が十分でない児童がいる
・指導者の不足により、児童の希望に沿った種目の部活動が行えない

（２）学校生活面

ア よい点

・児童同士のつながりが強い
・上学年が下学年の面倒をみるなど、学年を超えた交流ができる
・長年の間に培われた伝統や上学年から下学年に伝承されている活動がある
・児童一人一人に目が行き届き、トラブルやいじめを発見し、早期の解決を図ることができる

イ 課題

・人間関係が固定化し、人間関係の広がりがない
・トラブルを長期間引きずることがある

（３）学校運営面

ア よい点

・教員間の意思疎通や生徒指導に関する情報共有が密にできる
・学校施設を有効に使用することができる

イ 課題

・教員一人当たりが担当する校務分掌が多く、大規模校に比べて負担が大きい

２ 両校のよりよい教育環境について

両校の現状分析に加え、これまで委員会で行った保護者アンケート、教員アンケートの結果、保護者との意見交換会での意見などをもとに、両校のよりよい教育環境について次のように提言します。

（１）学習面

ア １クラスあたりの児童数

学習面においては、教員アンケートやヒアリングの結果から、学校規模よ

りもクラスの児童数の数が大きく影響することが分かりました。

個に応じたきめ細かな指導をするためには、１クラス当たりの児童数を可能な限り少なくすることが必要であると考えます。現在、１年生及び２年生は３５人学級、３年生以上は４０人学級となっています。これを全学年３５人学級またはそれ以下にすることにより、よりよい教育環境につながると考えます。

イ 外国籍児童の日本語教育

両校は、外国籍の児童数が多いことが特徴です。外国籍の児童は、日本語の習熟レベルに差があります。

現在、日本語指導員に加え、ＮＰＯ法人プラス・エデュケートや国立大学法人愛知教育大学の協力により、初期の日本語指導を行っています。今後は、そのレベルに合わせた習熟度別の取り出し授業をさらに充実させ、学校全体の学力向上を図ることが必要であると考えます。

ウ 両校のメリットを生かす

小規模校である両校のメリットとして、『学習面で児童一人一人の子どもたちを大切にした個に応じた指導ができる』、『各行事や諸活動において児童が活躍できる機会が多い』、『学校施設を有効に使用することができる』ということがあります。

また、文部科学省の公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引きにおいて一般的に小規模校の学校運営上の課題として挙げられたもののうち、『運動会や学習発表会等集団活動及び行事の教育効果が下がること』については、学校の工夫により十分な効果を上げており、多くの保護者も満足していることが分かりました。

『上級生・下級生間のコミュニケーションが少なくなること』については、上級生が積極的に下級生の世話をするなど密なコミュニケーションができていることが分かりました。

『班活動やグループ分けに制約が生じること』については、協同の学びな

ど様々な工夫により教育効果を上げていることが確認できました。また、児童数が少ないことにより様々な校外活動がしやすいなど、課題を克服しよさに繋げていることも分かりました。

引き続き、このメリットを継続した教育を行う必要があると考えます。

（２）学校生活面

ア 人間関係の広がり

学校生活面では、できる限り人間関係の広がりをもたせ、多様な個性を尊重し、社会性やコミュニケーション能力を身に付けさせる必要があると考えます。仮に統合した場合の小学校イメージに関する保護者アンケートでも、『多くの友達や先生とめぐり合うことができること』に最も魅力を感じています。

現在、両校の教員の皆様の努力により、社会性やコミュニケーション能力を養うことができています。一方で、将来を担う子どもたちの人間関係の広がりなどを考えた場合、教員アンケートの自由記述欄では、『１学年２クラスまたは３クラスが望ましい』という意見があり、また仮に統合した場合の小学校イメージに関する保護者アンケートにおいても『クラス替えができる』に魅力を感じる方が多かったことなどから、１学年あたり１００人弱の児童数が望ましいと考えます。

イ 両校のメリットを生かし、デメリットを少なくする

小規模校である両校のメリットとして、『児童同士や児童と教員とのつながりが強く、それにより学校に対する愛着や信頼をもつことができる』、『のびのびと学ぶことができる』、『学年を超えた交流が活発になる』、『教員が児童の学習や学校生活を把握しやすく結果的にトラブルの早期発見・早期解決を図ることができる』といったことがあります。一方、デメリットとして、『人間関係の固定化』やそれにより『トラブルを長期間引きずってしまう』といったこともあることが分かりました。

これらのメリットを生かし、デメリットをできる限り少なくする、きめ細かい環境整備を望みます。

（３）学校運営面

ア 校務分掌の負担減

学校運営面では、小規模校ほど教員間の意思疎通、連携が密になり組織対応が可能になるメリットがあります。他方、校務分掌の負担が大きくなり、授業や生徒指導に時間をかけることができなくなるデメリットもあります。

そこで、教員の校務分掌による負担が悪影響を及ぼすことのないよう、学校全体の教員数を増やすような方策が必要です。

３ よりよい教育環境の実現に向けて

よりよい教育環境の実現に向けて、市長には次のことを行っていただきますようお願いいたします。

（１）小学校の統合について

双峰小学校と唐竹小学校の統合によって『児童、教員、クラス数が増え、多様な個性を尊重する豊かな人間関係づくりができる』、『学校行事や部活動において活動が広がる』、『教員の校務分掌の負担が減る』などを実現することができます。

一方で、『外国籍児童の増加による日本語教育支援』、『小規模校のメリットや両校の伝統・文化の継承』という課題もあります。また、仮に統合した場合の小学校イメージに関する保護者アンケートでは、多くの方が『通学距離が延びる』ことを課題に感じています。

このようなことを踏まえ、今回提言するよりよい教育環境を、両校の統合により実現するのか、または統合せずに実現するのか、市としての基本方針を策定してください。

なお、基本方針では、近い将来に両校の学区において、今回と同様の問題が起こることのないよう、中長期ビジョンに基づく方針とすることを望みます。

（２）保護者や地域住民の理解

よりよい教育環境を実現するためには、学校、就学前児童も含めた保護者、地域住民の方など関係者のみなさまの理解が不可欠です。

基本方針の策定後は、課題の一つ一つについて、具体的な解決方法を提示し、意見交換会などを積み重ね、関係者のみなさまが理解し納得したうえで、実現に向けて進めてください。

（３）よりよい教育環境の評価・検証

教育委員会は、一定期間後に児童・教員・保護者アンケートなどを行い、よりよい教育環境が達成されたかどうかの評価・検証を行ってください。それにより、新たな課題が出ればその具体的な対策をとり、効果があることについては、市内の他の学校への導入も検討していただきますようお願いします。